


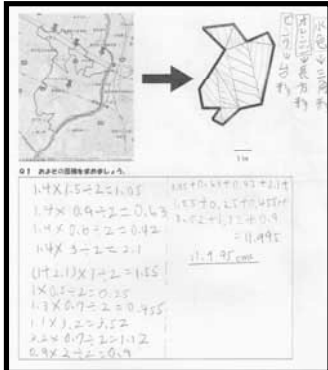
(4) 単元の中で三角形や四角形の面積公式を学習した後、導入で行った学区の面積を求める問題に戻り、正確な面積を出す。

本時では、導入で取り組んでいるため、ある程度解き方の見通しも立っており、全員の児童がすぐに取り組むことができた。単元中で三角形の求積公式を考える時に、どんな多角形でも三角形に区切れば求められると指導したため、右図 (I) のようにたくさんの三角形で区切る児童が多かった。また、右図 (II) のように、単元の後半に習った台形等を使って解こうとする児童も現れた。他にも、学区を長方形で囲んで周りを抜く児童もいた。どのように解いても、既習の図形で考えてあれば正解に求めることができる。児童が自分の考えに自信をもってやれたことと、たくさんの解き方ができ、理解が深まった。

(I)



(II)



3 学習上の留意点

- ・今回、本校が市内で大きめの学校であることから大きいか小さいかの予想もしやすいだろうと考えて学区の面積を問題にしたが、学級の状況や学校の状況に合わせてグラウンドの面積にしたり、児童に親しみのある場所や物の面積にしたりするとよい。
- ・単元のまとめとして学区の面積を再度解かせると、上記 (4) 図 (II) のように台形やひし形を使おうとする児童が出てくると考えられる。しかし、その場合台形やひし形が正しく作れていないと誤答である。発表させた後に、もう一度台形やひし形の定義について確認する必要がある。
- ・導入時の面積と、単元後の面積を比較できると望ましい。しかし、白地図自体が縮図であり、ずれもあるので結果が近づくかどうか難しいところである。本時の場合もかなりばらばらであった。
- ・正式に面積が書物やインターネットで出ている場合は、導入時の面積・単元後の面積・正式な面積を比べてみると、計算する有用性がさらに高まる可能性がある。一方、かなり正確に白地図を作り、計算しなければ大幅にずれる可能性もあるため、慎重に取り組む必要があると考えられる。

4 学習の効果

- ・導入として、学区の面積を考えさせることで、今後の面積の学習に関心をもって取り組むことができる。
- ・単元のまとめとして導入で行った問題に戻ること、最初は正確に出すことができなかった問題を解決することでできるようになるという達成感を味わうことができる。